

# WHO news December 2024

2024年12月4日

## [Second meeting of the International Health Regulations \(2005\) Emergency Committee regarding the upsurge of mpox 2024](#)

The WHO Director-General concurs with the advice of the Committee that the event continues to constitute a PHEIC for the reasons detailed in the proceedings of the meeting below, and issues revised temporary recommendations in relation to this PHEIC, which are presented at the end of this document.

### エムポックスの緊急事態継続

エムポックス（サル痘）に関する国際保健規則（2005）（IHR）緊急委員会が開催され、事務局長は、この事象が引き続き国際的に懸念される公衆衛生の緊急事態（PHEIC：public health emergency of international concern）であるという委員会の助言に同意しました。

8月にアフリカのコンゴ民主共和国を中心にエムポックスの感染が広がったことを受けて PHEIC を宣言して以来、感染が WHO の 6 つの全地域で報告され、WHO アフリカ地域は、クレード Ia、Ib、IIa による Mpox 症例の世界的増加の最大の要因となっていますが、WHO 西太平洋地域では、オーストラリアから報告された男性間の性行為を行う男性の間での MPXV クレード IIb のアウトブレイクにより、Mpox が増加しています。

状況はより複雑になり、すべての国々において、国際的な協調的な対応が引き続き必要であると強調しています。

---

2024年12月4日

## [The first-ever global oral health conference highlights universal health coverage by 2030](#)

Delegations from over 110 countries are coming together to produce national roadmaps and negotiate a joint declaration on oral health at the first-ever global oral health meeting organized by the World Health Organization (WHO). The declaration is expected to outline collective commitments from Member States to accelerate the implementation of the [Global strategy and action plan on oral health 2023–2030](#).

### 初の世界口腔保健会議で 2030 年までに UHC の実現を強調

口腔の健康は、歯科の健康と誤解されることが多く、その重要性が十分に認識されていませんが、口腔疾患は世界で最も一般的な非感染性疾患（NCDs）であり、およそ 35 億人が罹患していると推定されていて、う蝕（虫歯）、歯周病、歯の喪失、口腔がん、口内炎、先天異常などがあり、食事、呼吸、会話に不可欠な口腔、歯、顔の構造に影響を与えます。

世界保健機関（WHO）が主催する史上初のグローバル口腔保健会議（バンコク、タイ）に、110 カ国

を超える国々の代表団が集結し、各国のロードマップの作成と口腔保健に関する共同宣言の交渉が行われます。この宣言では、[「口腔保健に関する 2023 年から 2030 年までのグローバル戦略と行動計画」](#)の実施を加速させるための加盟国による共同の取り組みの概要が示される予定です。

---

2024 年 12 月 4 日

## [New report highlights need for sustained investment in infection prevention and control programmes](#)

Nearly five years since COVID-19 was first reported, a new global [report](#) on infection prevention and control (IPC) by the World Health Organization (WHO) shows there has been slow progress in addressing critical gaps to prevent healthcare-associated infections (HAIs)..

### **新たな報告書で、感染予防および管理プログラムへの持続的な投資の必要性を強調**

Covid-19 が初めて報告されてから約 5 年が経過しましたが、世界保健機関 (WHO) による[感染予防と管理 \(IPC : infection prevention and control\) に関する新たなグローバル報告書](#)では、医療関連感染 (HAIs : healthcare-associated infections) を防ぐために重要なギャップに対処する取り組みが遅々として進んでいないことが示されています。

この報告書は、イタリアが主催した G7 のサイドイベントで発表され、政策立案者、感染予防・管理 (IPC) の専門家、医療従事者、および関係者が行動を導くための基本評価を提供しています。医療関連感染 (HAI) の大部分は、感染予防・管理 (IPC) の実践と、基本的な水・トイレ・衛生設備 (WASH : water, sanitation and hygiene) サービスの改善によって予防することができ、これらはヘルスケア環境における薬剤耐性 (AMR: antimicrobial resistance) を低減するための費用対効果の高い「最善の策」でもあります。

この報告書によると、現在、71 % の国が積極的な IPC プログラムを実施しているものの、2023 年から 2024 年にかけて、WHO IPC の最低要件をすべて満たした国はわずか 6 % でした。また、低・中所得国 (LMIC) の患者は、高所得国 (HIC) の患者よりも医療提供時に感染症に罹患するリスクが最大 20 倍高いことも指摘しています。

WHO と経済協力開発機構 (OECD) の新たなデータによると、早急な対策を講じなければ、院内感染により毎年最大 350 万人もの患者が死亡する可能性があるかと推定されています。あらゆるレベルでの感染防止対策の改善は、死亡者数の減少につながります。

---

2024 年 12 月 4 日

## [Philippines and the Pacific strengthen health workforce for health security](#)

The first conference of the new Philippine-Pacific Health Initiative of the Philippine Government with Pacific island countries and areas and the World Health Organization (WHO), concluded

today with a shared commitment to address health workforce shortages in the region.

## フィリピンと太平洋諸国が健康安全保障のために医療従事者を強化

フィリピン政府による太平洋諸島諸国および地域と世界保健機関（WHO）との新たな「フィリピン・太平洋保健イニシアティブ」の最初の会議が終了し、この地域における医療従事者不足への取り組みに対する共通のコミットメントが確認されました。

医療従事者の不足は、低・中所得国に不均衡な影響を与え、人々が必要なヘルスケアを受けにくくなるという問題を引き起こし、人材不足は、パンデミックや自然災害の影響を受けやすい国々を作り出すことにもつながります。

WHO は、2030 年までにグローバルヘルス人材の不足が 1000 万人に達する可能性があると予測しています。

フィリピン・太平洋ヘルスイニシアチブは、効果的な労働力教育、雇用、定着戦略を特定するための連携プラットフォームとして設計されており、WHO の「保健人材の国際的採用に関するグローバル・コード・オブ・プラクティス：The WHO Global Code of Practice on the International Recruitment of Health Personnel」に沿った保健労働力の持続可能な管理を含む、短期的および長期的なニーズへの対応に取り組んでいきます。

---

2024 年 12 月 9 日

## [Global surveillance and monitoring system for substandard and falsified medical products: activity report, August 2017-December 2021](#)

Access to safe, effective medical products is paramount for global health. This report describes a critical role of WHO in ensuring the quality and safety of medical products, particularly in LMIC. The report signals the alarming rise in the number of reported incidents of SF medical products, including a wide range of essential medicines, such as antimicrobials, oncology medicines and vaccines.

## 規格外・偽造医薬品に対するグローバルな監視・モニタリングシステム活動報告書

この文書は、2017 年 8 月から 2021 年 12 月までの 5 年間にわたる、規格外および偽造 (SF : substandard and falsified) 医薬品に関するグローバル監視・モニタリングシステム (GSMS) の報告です。

この報告書では、対象期間中に抗菌薬、腫瘍治療薬、ワクチンなど、幅広い必須医薬品を含む SF 医薬品の 877 件の事故記録が指摘され、年平均 36.3 % の増加率となっていて、抗菌薬耐性増加への潜在的な影響は軽視できません。

COVID-19 パンデミックは、医療製品へのアクセスに大きな影響を与え、医薬品サプライチェーンは混乱し、医療品に対する需要が高まり、SF 製品の蔓延を助長する環境を生み出しました。

この報告書では、パンデミック中に登場したさまざまな SF 医療品に焦点を当て、健康上の緊急事態にはより厳重な警戒と対応が必要であることを示しており、加盟国が直面する課題として、限られた技術的能力、脆弱なガバナンス、不十分な国家報告システム、不適切な国際的な情報交換などを挙げてい

ます。この深刻な脅威に対抗するためには、が重要であることを強調しています。

SF 医療製品（規格外・偽造医薬品）の数は今後も増加し続けると予想されるため、報告書では協調的な行動を呼びかけ、規制システムの強化、国内の法的枠組みの改善、持続可能な報告システムの構築、規制当局と法執行機関の連携の改善、一般市民の意識向上、国際協力の推進などと製薬業界、医療従事者、市民社会の間の協力を提言しています。

---

2024年12月9日

## [Undiagnosed disease – Democratic Republic of the Congo](#)

Between 24 October and 5 December 2024, Panzi health zone in Kwango Province of Democratic Republic of the Congo recorded 406 cases of an undiagnosed disease with symptoms of fever, headache, cough, runny nose and body ache..

### **未診断の疾患 – コンゴ民主共和国**

2024年10月24日から12月5日までの間、コンゴ民主共和国クワンゴ州のパンジ健康地区では、発熱、頭痛、咳、鼻水、身体痛の症状を伴う原因不明の病気が406件報告されました。

重症患者は、全員が深刻な栄養不良状態にあると報告され、患者のうち31人が死亡しています。患者の大半は子供で、特に5歳未満の乳幼児が多数を占めています。その地域は遠隔の農村地帯であると共に雨季であるため、アクセスはさらに困難になっています。

こうした課題に加え、地域における診断能力の限界も相まって、根本原因の特定が遅れており、アウトブレイクの原因を特定し対応を強化するために、迅速対応チーム (rapid response teams) が派遣されました。チームは、検査室での検査用にサンプルを収集し、検出された症例についてより詳細な臨床的特徴を特定し、感染動態を調査し、保健医療施設内および地域レベルの両方で、さらなる症例を積極的に探しています。また、患者の治療、リスクコミュニケーション、地域社会との連携も支援しています。

報告された臨床症状や徴候、および関連する死亡例の数から、栄養の不良が「急性肺炎、インフルエンザ、Covid-19、麻疹、マラリア」などを単一もしくは複合的に誘因する潜在的な要因と考えられています。

---

2024年12月9日

## [WHO global action plan on promoting the health of refugees and migrants, 2019–2030](#)

In 2017, the Seventieth World Health Assembly considered the report on promoting the health of refugees and migrants (A70/24) and the decision of the Executive Board (EB140(9)). In May 2023, the Seventy-sixth World Health Assembly decided to extend the time frame of the global action plan from 2023 to 2030.

## 難民と移民の健康促進に関する WHO 世界行動計画 2019 ～ 2030

2019年5月の第72回世界保健総会では、難民と移民の健康増進に関する世界保健機関（WHO）のグローバル行動計画（2019～2023年）が認められていましたが、これに次いで2023年5月、第76回世界保健総会は、グローバル・アクション・プランの期間を2030年まで延長することを決定しました。

このプランは、より広範な普及と理解を促進するために、グローバル行動計画の主要な項目を統合したものです。

優先事項として以下の6つが掲げられています。

- 1) 短期および長期の公衆衛生介入を組み合わせることにより、難民および移民の健康を促進する
- 2) 必須のヘルスケアの継続性と質を促進すると同時に、労働安全衛生対策を開発、強化、実施する
- 3) 難民および移民の健康を、グローバル、地域、各国の議題に主流化すること、難民および移民に配慮した健康政策および法的・社会的保護の推進、難民および移民の女性、子ども、思春期の若者の健康とウェルビーイング、難民および移民の女性と少女のジェンダー平等とエンパワーメント、パートナーシップおよび部門間、国間、機関間の調整と協力メカニズムを提唱する
- 4) 健康の社会的決定要因に取り組む能力を強化し、ユニバーサルヘルスカバレッジを含む持続可能な開発目標の達成に向けた進捗を加速する
- 5) 健康モニタリングと保健情報システムの強化
- 6) エビデンスに基づく健康コミュニケーションの改善と移民・難民の健康に関する誤解への対策を支援する

---

2024年12月9日

### [WHO announces first prequalification of a tuberculosis diagnostic test](#)

The World Health Organization (WHO) has granted prequalification to the molecular diagnostic test for tuberculosis (TB) called Xpert® MTB/RIF Ultra. It is the first test for TB diagnosis and antibiotic susceptibility testing that meets WHO's prequalification standards.

### WHO、結核診断検査の初の事前認証を発表

結核は毎年100万人以上の死因となる、世界でも有数の感染症であり、特に低中所得国では、多大な社会経済的負担をもたらしています。結核、特に薬剤耐性菌の正確かつ早期発見は、今なおグローバルヘルスの重要な優先事項であり、困難な課題です。

世界保健機関（WHO）は、結核（TB）の分子診断検査である Xpert® MTB / RIF Ultra に事前認証を与えました。

Xpert® MTB / RIF Ultra は、肺結核のスクリーニングで陽性と判定された患者のうち、過去6か月間に抗結核薬による治療を開始していない、または3日未満の治療しか受けていない患者を対象とし、結核の原因となる細菌である *Mycobacterium tuberculosis*（結核菌）の遺伝物質を喀痰サンプルから検出すると同時に、多剤耐性結核の重要な指標であるリファンピシン耐性に関連する変異を特定し

ます。

この検査は結核の診断と薬剤感受性検査において、WHO の事前認証基準を満たす初の検査法であり、WHO の取り組みにおける重要なマイルストーンとなります。

---

2024 年 12 月 9 日

## [Building migrant- and refugee-inclusive health systems in a changing climate](#)

As the world gathered at COP29 in Baku, Azerbaijan, the World Health Organization (WHO), in collaboration with the United Nations High Commissioner for Refugees (UNHCR), the International Organization for Migration (IOM) and the International Federation of Red Cross (IFRC), convened a pivotal [high-level event](#) to address the intersection of climate change, migration, displacement and health..

### **気候変動に対応した、移民・難民のための保健システム構築**

アゼルバイジャンのバクーで開催された COP 29 で、世界保健機関 (WHO) は、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、国際移住機関 (IOM)、国際赤十字・赤新月社連盟 (IFRC) と協力し、気候変動、移住、避難、健康の相互関係について議論する重要なハイレベルイベントを開催しました。このイベントでは、気候変動に強く、移民や難民も受け入れることのできる健康システムの構築に向けた各国の戦略と課題について、パネリストたちが意見を交わしました。

パネルでは、避難民コミュニティにおけるメンタルヘルスのニーズへの対応と、持続可能で拡張可能なソリューションを生み出すためのパートナーシップの活用的重要性が強調され、健康、気候変動、移民の 3 つの問題を同時に解決するための、エビデンスに基づく政策の推進と協力体制の構築の緊急性と、移民、避難民、受け入れコミュニティの声や経験を積極的に取り入れ反映させる必要性が強調されました。

---

2024 年 12 月 17 日

## [New WHO report reveals governments deprioritizing health spending](#)

The [2024 Global Health Expenditure Report](#) by the World Health Organization (WHO) shows that the average per capita government spending on health in all country income groups fell in 2022 from 2021 after a surge in the early pandemic years.

### **UHC デー：WHO の新報告書で各国政府が医療費支出の優先順位を下げていることが明らかに**

世界保健機関 (WHO) による「[2024 年グローバルヘルス支出報告書](#)」によると、パンデミックの初期に急増した各国の国民一人当たりの政府による平均医療支出は、2021 年から 2022 年にかけて減少しました。

「パンデミックからの脱却におけるグローバルヘルス支出」と題されたこの報告書は、毎年 12 月 12 日に開催される「[ユニバーサルヘルスカバレッジ \(UHC\) デー](#)」キャンペーンに合わせて発表されたものです。

UHC を実現するには、政府による医療支出が不可欠で、2024 年のキャンペーンの焦点は、必要な医療サービスを利用するための経済的保護を世界中の人々が受けられるようにすることですが、世界で 45 億人が基本的な医療サービスを利用できず、20 億人が医療費負担に苦しんでいる状況で、医療支出の優先順位を下げれば、悲惨な結果を招く可能性があります。

UHC デーに際し、WHO は各国のリーダーたちに UHC を国家の優先事項とし、2030 年までに医療費による貧困を撲滅するよう呼びかけており、財政的保護を強化するための効果的な戦略には、低所得者や慢性疾患患者など最も支援を必要とする人々に対する利用者負担を最小限に抑えるか、または撤廃すること、医療費による貧困化から人々を守るための法律を制定すること、そして公的資金による健康金融メカニズムを確立し、全人口をカバーすることが含まれます。

WHO の医療費支出追跡調査プログラムは、25 年にわたり、その報告は UHC に大きな影響力を持ち続けてきました。その最も重要な成果としては、2000 年以降の 190 カ国以上の健康支出データを網羅する世界最大のデータベースである[グローバルヘルス支出データベース](#)の構築、および 2017 年より毎年発行されているグローバルヘルス支出報告書が挙げられます。

---

2024 年 12 月 17 日

## [Reinvigorated global efforts needed to curb rising malaria threat](#)

New data from the World Health Organization (WHO) reveal that an estimated 2.2 billion cases of malaria and 12.7 million deaths have been averted since 2000, but the disease remains a serious global health threat, particularly in the WHO African Region.

According to WHO's latest [World malaria report](#), there were an estimated 263 million cases and 597 000 malaria deaths worldwide in 2023.

### 世界マラリア報告書

世界保健機関 (WHO) の最新データによると、2000 年以降、推定 22 億件のマラリア感染と 1270 万件の死亡が回避されたことが明らかになりました。しかし、この病気は依然として深刻なグローバルヘルスの脅威であり、特に WHO のアフリカ地域では深刻な問題となっています。

今年の世界マラリア報告書では、マラリアに最もかかりやすい人々を救うために、より包括的で効果的な対応が必要であることが強調されています。

WHO の最新[世界マラリア報告](#)によると、2023 年には世界中で推定 2 億 6300 万件のマラリア感染と 59 万 7000 件のマラリア死亡が発生しました。これは、2022 年と比較して 2023 年の症例数が約 1,100 万件増加し、死亡者数はほぼ同じであることを意味します。死亡者の約 95 % は WHO アフリカ地域で発生しており、この地域では依然として、多くのリスクを抱える人々が、必要な予防・治療サービスを利用できない状況にあります。

2024 年 11 月現在、[44 カ国と 1 地域](#)が WHO によりマラリアフリーの認定を受けており、さらに多くの国々が着実にその目標に向かって進んでいて、2015 年以降、WHO アフリカ地域でもマラリア死亡率が 16 % 減少しました。

マラリア流行国は現在 83 カ国あり、25 カ国が年間 10 例未満のマラリア症例を報告しており、2000 年の 4 カ国から増加しています。そして、2023 年の推定死亡率は、リスクのある人口 10 万人あたり 52.4 人と、「[マラリア対策のための世界技術戦略 2016 - 2030](#)」で定められた目標値である人口 10 万人あたり 23 人の 2 倍以上であり、その戦略の進展を加速させる必要があります。マラリア対策への資金調達は不十分で、そのほか脆弱な医療システム、不十分な監視体制、薬剤耐性や殺虫剤耐性などの生物学的脅威の高まりに直面し続け、紛争、暴力、自然災害、気候変動、人口移動が、健康上の不公平をさらに悪化させています。

---

2024 年 12 月 17 日

## [Over 1 in 5 adults worldwide has a genital herpes infection – WHO](#)

Around 846 million people aged between 15 and 49 are living with genital herpes infections – more than 1 in 5 of this age-group globally – according to [new estimates](#) released today. At least 1 person each second – 42 million people annually – is estimated to acquire a new genital herpes infection.

### **世界中で成人の 5 人に 1 人以上が性器ヘルペス感染症に罹患している – WHO 推計**

Sexually Transmitted Infections (性感染症) 誌に掲載された最新の研究では、ヘルペスウイルスの健康への悪影響を軽減し、その蔓延を抑制するためには、新たな治療法とワクチンが必要であると述べています。

WHO の[新たな推計](#)によると、15 歳から 49 歳までの約 8 億 4600 万人が性器ヘルペスに感染しており、これはこの年齢層の 5 人に 1 人以上にあたります。1 秒に少なくとも 1 人、年間 4200 万人が新たに性器ヘルペスに感染していると推定され、5 億 2000 万人が性器 HSV - 2 に感染しているとされています。これらの感染症のほとんどは、症状が現れないか、あっても軽微です。しかし、一部の人々にとっては、痛みを伴う性器のただれや水疱を引き起こし、生涯にわたって再発する可能性があり、著しい不快感をもたらし、医療機関への複数回の受診が必要になる場合もあります。現在、ヘルペスを完治させる治療法はありませんが、症状を緩和する治療法はあります。ヘルペスは、ただれを伴うだけでなく、時に新生児ヘルペスなどの深刻な合併症を引き起こすこともあります。

性器ヘルペスは公衆衛生上の観点から、再発の可能性が高く症状のある症例の約 90 % を占め、同時に HIV 感染リスクを 3 倍高める可能性があるため、より深刻です。

HSV - 1 は主に小児期に唾液や皮膚と皮膚の接触により口の周りに広がり、口唇ヘルペスや口内炎などの症状を引き起こします。しかし、感染歴のない人では性的接触により感染し、思春期や成人期に性器感染を引き起こすことがあります。

2020 年には、約 3 億 7600 万人が性器 HSV - 1 感染症にかかっており、このうち、5,000 万人は HSV - 2 も保有していると推定され、両方のタイプを同時に保有していると推定されます。WHO は、性器ヘルペスの症状がある人に対して HIV 検査を行い、必要に応じて HIV 予防のための暴露前予防法を推奨しています。感染拡大を完全に防ぐことはできませんが、コンドームを適切かつ一貫して使用することで、ヘルペスの感染リスクを低減することができます。

---

2024年12月17日

## [Drowning deaths decline globally but the most vulnerable remain at risk](#)

The World Health Organization (WHO) publishes its first-ever report on drowning prevention, which reveals a 38% drop in the global drowning death rate since 2000—a major global health achievement.

### 溺水防止に関する初の報告書

世界保健機関 (WHO) は、溺水防止に関する初の報告書を発行しました。

この報告書では、2000年以降、世界の溺死率が38%低下したことが明らかになっており、これはグローバルヘルスにおける大きな成果です。しかし、溺死は依然として大きな公衆衛生上の問題であり、1時間あたり30人以上が溺死していると推定され、2021年だけでも30万人が溺死していると指摘しています。溺死のほぼ半数は29歳未満の人々に発生しており、4分の1は5歳未満の子供たちです。大人の監督のない子供たちは、特に溺死のリスクが高いのです。また、世界レベルでは、溺死の10件中9件が低・中所得国で発生しています。

本報告書は、世界保健総会決議76.18(2023)を通じて加盟国が要請したことを受け作成されたもので、溺死防止には社会全体が連携した対応が必要であることが強調され、溺死防止に向けた世界レベルでの成果と課題をまとめ、進捗状況を追跡するためのベンチマークを提供しています。

2024年12月17日

## [Opening Ceremony of the WHO Academy](#)

The Opening Ceremony of the WHO Academy will be held on Tuesday, 17 December 2024 at the WHO Academy campus in Lyon. This hybrid event will bring together WHO Member States and local, national, and international partners to highlight the importance of lifelong learning in the health sector and provide an opportunity to experience the Campus facilities in action.

### WHO アカデミー (仏リヨン) 開設

WHO アカデミーの開所式が、2024年12月にリヨンのWHO アカデミーキャンパスで開催されました。

WHO アカデミーは、新しいテクノロジーを活用し、成人学習の最新の進歩を応用することで、加盟国が医療従事者の訓練における重要なギャップに対処できるよう支援することや、革新性と協力を促進することを目的とし、医療従事者やケアワーカー、意思決定者、WHO職員を対象に、オンラインと対面式の両方で質の高いコースを提供します。

キャンパスは、フランス政府の資金提供を受けて環境に配慮した施設として設計され、リヨンのジェルラン地区のバイオ地区に設置されました。ここには世界トップクラスのシミュレーションセンターを備え、世界中の学習者、トレーナー、学者、研究者のハブとなる予定です。

開所式は、WHOとフランス政府の共催で、テドロス事務局長とマクロン大統領の出席のもと開催され、ハイブリッドイベントは、ハイレベルセッションで始まり、キャンパスの最先端施設とアカデミーのコ

ースが持つ変革の可能性をダイナミックに紹介するショーが続く予定です。

---

2024年12月23日

## [Lebanon: soaring needs for trauma treatment and rehabilitation](#)

Thousands of civilians require reconstructive surgeries and physical rehabilitation. All but one hospital are gradually reopening, while most are not operating at full capacity.

### **外傷治療とリハビリテーションの需要急増 (レバノン)**

レバノン紛争に巻き込まれた数百万人の民間人は、11月27日に発効した停戦と敵対行為の停止によって一時的な救済をもたらしましたが、レバノンには150万人のシリア難民がおり、シリア国民がレバノンに入国する一方で、シリア難民がレバノンからシリアに戻っています。

シリアとイスラエルに隣接するレバノンの医療システムは、経済危機、政治的行き詰まり、難民危機、そして今や戦争の影響で混乱し、戦闘により避難を余儀なくされた100万人以上の人々が、物理的・医療インフラが崩壊したレバノン南部に戻っています。

必然的にシリアでの出来事はレバノンとWHOの活動に影響を与えており、レバノンでは長年の課題となっている財政難と人材不足により、いくつかの保健医療施設は依然として閉鎖されたままで、ほとんどの病院は定員を下回る状態で運営されています。また、水と衛生システムは深刻な打撃を受け、病気のアウトブレイクのリスクをさらに高めています。

戦争関連の外傷および形成再建手術の専門知識を持つ訓練を受けた医療従事者の十分な数を確保することが最優先事項です。

8週間の停戦から3週間が経過し、WHOと公衆衛生省は、医療用品の補充と全国的な医療サービスの復旧に取り組んでいます。

---

2024年12月23日

## [Relationality in community engagement: its role in humanizing health and achieving quality integrated health services](#)

A new report, entitled “Relationality in community engagement: its role in humanizing healthcare and achieving quality integrated health Services” has been developed in collaboration with the Qatar Foundation for Education, Science and Community Development (QF) and launched at the Seventh edition of the World Innovation Summit for Health (WISH) taking place in Doha on 13–14 November 2024.

### **質の高い統合医療サービスを実現するコミュニティの関与における関係性**

『地域社会の関与における関係性：全人的医療と質の高い統合医療サービスの実現におけるその役割』と題された新しい報告書が、カタール教育・科学・地域開発財団(QF)との共同作業で作成され、第7回世界健康イノベーションサミット(WISH: World Innovation Summit for Health)で発表

されました。

この新しいレポートでは、WHO のさまざまな地域における地域社会の関与の背景と現在の政策状況を紹介し、健康システム機能および活動にコミュニティ参加プロセスを組み込み、強化するための統合変化フレームワーク (ICF : Integrated Change Framework) を提示し、ICF に盛り込まれた共通の成功要素に焦点を当てながら、8 か国のケーススタディを調査し、健康システムのパフォーマンスを向上させるために ICF を適用するための提言をまとめています。

コミュニティ・エンゲージメント (地域社会との関わりの中から課題を発見して解決を試みる活動) では、医療従事者間の関係、医療従事者と患者の関係の改善が強調されています。これを実現するために、各国政府は以下の側面に焦点を当てるよう奨励されています。

- 1) 関係性に基づくリーダーシップ、マネジメント、ガバナンスの推進
- 2) 健康システムにおける関係構築能力の強化
- 3) 学際的研究と実践開発への投資

---

2024 年 12 月 23 日

## [International Day of Epidemic Preparedness, 27 December](#)

The UN General Assembly [invites](#) all Member States, organizations of the United Nations system and other global, regional and subregional organizations, the private sector and civil society, including non-governmental organizations, academic institutions, individuals and other relevant stakeholders to observe the International Day of Epidemic Preparedness annually in an appropriate manner and in accordance with national contexts and priorities, through education and awareness-raising activities, in order to highlight the importance of the prevention of, preparedness for and partnership against epidemics.

### **国際疫病対策の日 (12 月 27 日)**

12 月 27 日は国連が定める「国際疫病対策の日」で、この国際デーは、予防接種で画期的な成果を残したフランスの生物学者、ルイ・パスツールの誕生日にあたります。

COVID-19 パンデミックに代表されるように、主要な感染症や疫病は人々の生活に壊滅的な影響を与え、長期的な社会経済発展に甚大な被害をもたらします。グローバルレベルの危機は、すでに限界に達していた医療システムを圧迫し、グローバルサプライチェーンを混乱させ、女性や子どもを含む人々の生活や、最貧国や最も脆弱な国の経済に不均衡な打撃を与える恐れがあり、脆弱な立場にある人々や、脆弱な状況にある人々にも行き届く、強靱で堅牢な健康システムを構築することが急務です。

疫病対策に国際的な関心が払われない場合、過去のアウトブレイクを上回る可能性があります。感染症の予防と対応に、地域、国、地域、世界レベルでの、意識向上、情報交換、科学的知識とベストプラクティスの共有、質の高い教育、感染症に関するアドボカシープログラムが強く求められています。

また、発生する可能性のあるあらゆる感染症に対して、最も早期かつ最も適切な対応ができるよう、準備態勢のレベルを引き上げ、さらに、人間の健康、動物の健康、植物の健康、環境およびその他の関連部門の統合を促進する統合的な[ワンヘルス・アプローチ](#)の価値を認識することが重要です。

国際協力と多国間主義は、感染症への対応において重要で、国際システム、特に世界保健機関は、与えられた権限により感染症への対応を調整する上で極めて重要な役割を果たしており、[2030 アジェンダ](#)の目標に沿って、感染症や流行病の予防、緩和、影響への対処に向けた各国、各地域、国際社会の取り組みを支援しています。

---

2024年12月23日

## [Conflict in Israel and the occupied Palestinian territory](#)

Since 7 October 2023, the escalating crisis in Israel and the occupied Palestinian territory has caused large numbers of civilian deaths and injuries.

### イスラエルとパレスチナ占領地域における紛争

2023年10月7日以降、エスカレートするイスラエルと被占領パレスチナ地域、レバノンの危機により、多数の民間人が死亡または負傷し、医療従事者や患者が死亡・負傷し、保健医療施設や救急車が被害を受けるなど、医療に対する攻撃が報告されています。

ガザ地区では、空爆と医療用品、食料、水、燃料の不足により、すでに十分でない医療システムが事実上枯渇しています。患者数の増加と避難民の増加により、病院はキャパシティをはるかに超えて運営されており、病院へのアクセスの不足と病院周辺の敵対行為により、妊婦と新生児のケアから慢性疾患の治療に至るまで、不可欠な医療サービスの提供が著しく妨げられています。

イスラエルでは、子供や高齢者を含む100人以上の民間人が依然として人質として拘束されています。

レバノンでも事態は急速に悪化しており、死者が増え続け、病院は負傷者の流入に圧倒されています。

WHOは、最も緊急を要する健康ニーズに対応するため、パートナーと協力し、医療システムの継続的な機能維持を支援しています。救命物資の提供、外部からの医療支援の組織化、疾病アウトブレイクの監視と対応を行い、すべての当事者に対し、自国民の健康を守り、医療への安全なアクセスを確保するよう強く求めています。最終的には、WHOは平和を呼びかけています。(2024.12.20 更新)

---

2024年12月23日

## [Marburg outbreak in Rwanda declared over](#)

The outbreak of Marburg Virus Disease was declared over today by the Government of Rwanda with no new cases reported over the last 42 days after the last patient tested negative for the virus twice, as per the usual protocol for ending these types of outbreaks.

### ルワンダにおけるマールブルグ流行終息宣言

ルワンダ政府は12月20日、最後の患者が通常のプロトコルに従って2度ウイルス陰性と判定された後、42日間新たな患者が発生していないことを受け、マールブルグウイルス病のアウトブレイクは終息したと発表しました。

2024年9月27日に確認されたルワンダにとって初めてのアウトブレイクで、合計66人の感染者と15人の死亡者が確認され、感染者の約80%は、同僚や他の患者への治療中に感染した医療従事者でした。

ウイルスの感染拡大を食い止め、人命を救うため、ルワンダ保健当局は世界保健機関（WHO）およびパートナーの支援を受け、疾病監視、検査、感染予防と管理、接触者追跡、臨床ケア、啓発活動など、幅広い対策を含む包括的な対応策を実施しました。

これらの対策により、アウトブレイクの拡大は抑制され、感染が確認されてから2週間目と3週間目の間に感染者数は半減し、その後も約90%減少しました。

WHOは、ウイルスの再燃や新たな感染が起きた場合に迅速な検出と対応を確保するための重要な対策を維持するため、引き続き国家当局と緊密に連携していきます。WHOは、回復した患者が後遺症を克服できるよう、包括的なケアプログラムを実施し、持続させるため、保健省への支援を継続していきます。

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHOニュースリリース、声明及びメディア向けノートの原文をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>